

目的 適齢期男女の人口のアンバランスや、女性の結婚に対する意識の変化から結婚難時代が到来しているが、一方、結婚式は盛大で、披露宴や衣裳が豪華になり、年々高額になっていると云われている。しかし、その形式は画一的で個性のない傾向にある。消費財が豊富になり、多様化の時代に若者が自分らしさを求め、より个性的でありたいとする現代の風潮との関連はどうなっているのだろうか。本研究では、結婚直前・直後の女性が結婚観や家庭像をどのようにもち、実際にどのような結婚式を予定したり、挙げているのか、その実態について調査を行った。日常の衣生活の意識や態度、ファッション意識・態度と、好ましいブライダル・ドレスの選択、披露宴のドレスのイメージについて把握し、ファッション意識や態度と花嫁衣裳の嗜好と選択との関連について分析を行った。

方法 調査は、近畿地区に在住する20～35歳の婚約中の女性76名と、結婚3年以内の女性89名の計165名を対象として、1990年8～10月に配布留置法により行った。主な調査項目は個人特性、結婚の意識と態度、結婚の実際、披露宴の衣裳のイメージ、ブライダル・ドレスのデザイン、ファッション意識・態度である。分析は、単純集計、クロス集計、因子分析、クラスター分析を行い、結婚に対する意識と花嫁衣裳・ファッション意識との関連を検討した。なお、現在婚約中の者と既婚者についても比較を行った。

結果 ファッション意識とブライダル衣裳の嗜好、結婚意識についてクラスター分析を行い、類型化を試みたところ5グループがみとめられた。タイプ別にみると、結婚の利点に「精神的安定を得られる」と答えたタイプと、「人生に区切りをつけたい」と云うタイプは、ブライダル衣裳の嗜好に異りがみられた。披露宴の衣裳の選択基準は、デザイン、流行、オーソドックスで、花嫁衣裳は殆どがレンタルである。